

夏季大会に向けて

生徒のみなさん。定期テストの返却も終わり、7月の陽射しが夏の匂いを帯び始める頃、いよいよ夏季大会・コンクール（一部の部活動を除く）が目前に迫ってきました。特に三年生にとって、この大会は三年間の努力のすべてを懸ける最後の舞台です。私は君たちの成長を見守ってきた大人の一人として、今この瞬間にどうしても伝えたい思いがあります。

君たちが歩んできた三年間には、数えきれないほどの時間と感情が詰まっています。雨の日も風の日も、練習した日々。思うようにいかず、悔し涙を流した放課後。仲間とぶつかりながらも、最後には笑って前を向いた日々。先生の言葉に救われた瞬間や、家族の支えに気づいて胸が熱くなった夜。そうした一つひとつの積み重ねが、今の君たちをつくり上げています。そして何より、辛いことや思い悩むこともあったけれど、それでもここまで続けてきた“自分自身”の姿こそ、君たちの誇りそのものです。

ここで、私自身の経験を少しだけ話させてください。

私の子どもが中学生の頃（2012年という、中2の皆さんが生まれた年ですね、びっくり！）、ある大会の会場で一枚のポスターを目にしました。そこには、こんな趣旨の言葉が書かれていました。

「勝っても負けても、おめでとうなんだ。だって、ずっと練習してきた。休みたい日も遊びたい日も、毎日毎日練習しつつ、…」

その言葉を読んだ瞬間、私は胸が熱くなりました。なぜなら、その言葉は“結果”ではなく、そこに至るまでのすべての時間を肯定してくれる言葉だったからです。

この言葉は、単なる励ましではありません。「勝っても負けても、おめでとう」という一文には、次のような深い価値観が込められています。

- ・ 努力は結果によって価値が決まるものではない
- ・ 日々の積み重ねそのものが、すでに祝福されるべきものだ
- ・ 続けてきた自分を誇っている
- ・ 勝敗は人生の一部でしかないが、努力は人生を形づくる力になる

この言葉は、私にとっても、そして今の君たちにとっても、「努力の報われ方はひとつではない」という真実を静かに、しかし力強く教えてくれます。努力は、必ずしも“勝利”という形だけで報われるわけではありません。思い描いた結果に届かないこともある。悔しさが残ることもある。

しかし、だからといって努力が無駄になることは決してありません。努力は、

- ・ 君たちの心の中に「自信」として残り
- ・ 仲間との絆を深め
- ・ 自分を信じる力を育て
- ・ 次のステージへ進むための土台となり
- ・ そして何より、君たち自身を強く、優しく、豊かにします

結果がどうであれ、努力は必ず君たちの未来を支える力に変わる。そのことを、どうか忘れないでほしい。

試合の結果は自分で選ぶことはできません。しかし、試合に向かう過程——どんな気持ちで準備をするか、仲間とどんな言葉をかけるか、自分の弱さとうどう向き合うか、最後の一瞬まで何を信じるか——これらはすべて、君たち自身の意思で選び取ることができます。だからこそ私は、大会終了後、胸を張って「これまでの時間と選択が、充実したかけがえのない時間だった」と思えるように、残された日々を大切に過ごしてほしいと強く願っています。

大会までの数日は、単なる準備期間ではありません。君たちの三年間を締めくくる仕上げの時間の1つです。仲間と心を通わせる時間、自分の弱さを認めて強さに変える時間、これまでの努力を静かに振り返る時間。そのすべてが、君たちの心を整え、試合での力となります。

七条中の生徒のみなさん。君たちが選ぶ一つひとつの行動が仲間を勇気づけ、チームを強くし、そして君たち自身の未来を形づくります。努力は必ず君たちの力になります。自分のために、仲間のために、そして三年間の自分を誇るために、全力で、最高の夏をつかみにいきましょう。

